

第 1 回大網白里市総合計画審議会 議事要旨

日 時：令和 7 年 1 月 2 3 日（木） 午後 3 時 0 0 分～5 時 0 0 分

場 所：保健文化センター 3 階ホール

傍 聴：1 名

< 委員名簿 >

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	市議会議員	大網白里市議会	議 長	小倉 利昭	欠席
2	学識経験者	城西国際大学	教 授	渡邊 修朗	
3		千葉大学	教 授	関谷 昇	
4		山武郡市医師会	副会長	錦織 吉宏	
5		山武地域振興事務所	所 長	田中 正直	
6		山武土木事務所	所 長	田中 武彦	
7	関係諸団体の代表 及び職員	大網白里市教育委員会	教育長職務代理者	今井 克典	
8		大網白里市農業委員会	会 長	内山 充弘	
9		大網白里市消防団	副団長	吉田 崇重	
10		大網白里市区長会	会 長	吉田 豊孝	
11		大網白里市社会福祉協議会	会 長	永野 和子	
12		大網白里市スポーツ協会	会 長	柏山 幸一	
13		大網白里市商工会	会 長	久我 一雄	
14		大網白里市観光協会	会 長	内山 信男	
17		大網白里市防犯組合	副組合長	鈴木 晟義	
18		みどりが丘保育園	園 長	中村 範枝	欠席
19	市民代表	公募委員		大塚 晃一	
20		公募委員		小西 一裕	
21		公募委員		齋藤 壽彌	
22		公募委員		松本 清資	

	区分	所属	役職	氏名	備考
1	事務局		副市長	堀江 和彦	
2		企画政策課	課 長	飯高 謙一	
3		企画政策課	副課長	久保 崇	
4		企画政策課	班 長	齋藤 友康	
7		企画政策課	主任主事	田邊 正洋	

1. 開 会

(略)

2. 副市長挨拶

本日、市長が公務のため、市長に代わり挨拶させていただく。

本市では、市の最上位計画である第6次総合計画に基づいて各種施策を進めているが、総合計画の前期5か年を経過するにあたり、現時点における市が抱える地域課題、これに対する各施策の進捗状況等を踏まえ、令和8年度から12年度までの後期基本計画の策定をすることとした。また、計画策定にあたり、各種調査・審議を行う機関として本審議会を設置したところである。

本市の将来像「未来に向けて みんなでつくろう！住みたい・住み続けたいまち」の実現に向け、皆様の幅広い視点から、まちづくりについてご審議いただきたい。

3. 委嘱状の交付

副市長から各委員へ委嘱状を手渡す

4. 委員及び事務局職員紹介

(略)

5. 会長及び副会長選出

委員

会長及び副会長について、事務局の案はあるか。

事務局

事務局の案について説明させていただく。本審議会は、慣例として、会長、副会長を学識経験者をお願いしている。今回、各大学を通じて、城西国際大学の渡邊教授と、千葉大学の関谷教授に参加いただいているため、事務局案としては、前回と同様に城西国際大学の渡邊委員に会長を、千葉大学の関谷委員に副会長をお願いしたいがいかかがか。

⇒ 異議なしのため、渡邊委員を会長に選出、関谷委員を副会長に選出。

会長挨拶

前回、前々回と大網白里市の総合計画策定に携わったが、市の将来を考え、委員から活発に意見が出たおかげで、総合計画を策定することができた。

今回も活発なご意見をお願いできればと思っている。

副会長挨拶

政治学を専門としており、様々な自治体の総合計画策定や、政策・事業に関わっているが、まちづくりを巡る状況は非常に変化している。

人口減少や少子高齢化は大きな課題だが、その中でも「まちの力」をどう引き出していくか知恵を出し合っていかなければいけない。何も手を打たなければ枯渇していく。

様々な政策分野があるが、それぞれの中で何が課題なのか、その課題を克服していくために我々は何を考えなければならないのか議論し、より良い計画ができればと思っている。

6. 諮 問

副市長から渡邊会長へ諮問書を手渡す

7. 議 事

会長

議事に入る前に、議事録の公開についてご意見を伺う。本審議会は、市の最上位計画である総合計画の基本構想や後期基本計画を審議するもので、市民の皆様に審議経過が明瞭となるよう議事録を作成し、ホームページ等で公開すべきだと考える。

発言者の氏名については、〇〇委員と氏名を入れる方法と、会長、委員等、氏名を略して作成する方法があるが、どちらで議事録を作成していくか、ご意見を伺いたい。

また、議事録は皆様からの意見をまとめたもの、要点筆記でよいかと考えているがいかがか。

特に意見がないようなので決をとりたい。賛成の委員は挙手をお願いしたい。

(挙手多数)

それでは、議事録の公開については、名前は出さないこととする。また、議事録は要点筆記とする。

(1) 大網白里市総合計画について

(資料5により事務局説明)

(意見等なし)

(2) 大網白里市第6次総合計画策定方針について

(資料6により事務局説明)

委員

計画を策定する上で、どの年代をターゲットにしていくのか。また、転出入や出生率の低下等の原因を分析し、計画に反映させなければいけない。

データをもう少し具体的に示していただきたい。

事務局

出生数の減少、晩婚化等は本市だけでなく日本全体の傾向となっている。

現在の施策としては、結婚・妊娠・出産に関する支援を進めている。

委員

出生率に関しては、やはり子育てしやすい環境が重要だと思う。
データに基づいて把握していきたいので、その点お願いしたい。

委員

人口の増減について説明があったが、総合計画の最も重要なK P I として考えているのか。

事務局

現行の第6次総合計画前期基本計画では各施策に成果指標を設定しており、人口については「移住定住」に関する施策の成果指標として「人口の転入超過数」を設定している。
後期基本計画においても、人口の自然動態・社会動態に関する指標の設定を考えている。

委員

まちが活性化するためには、人口が多いこと、財政が豊かであることが重要。
令和12年に人口45,000人を維持するという目標について、これは達成可能な数字なのか。また、人口の問題の前に、まず、市の財政に関して具体策を示すべきではないか。

事務局

基本構想で定める目標人口に向かって、それを達成するための基本計画を策定していく。
総合計画では、各施策の目標や方向性を定めていくため、今回は財政状況に関する資料はない。

委員

人口ピラミッドを見ると、今後も高齢者人口は増え、総人口が減少するのは致し方ない。
出生率の低下が人口減少の原因だが、これを維持するのは非常に難しい。大網白里市で出産を考える際に課題となるのが、近隣で出産ができず、女性が非常に不安という点。
現在、東千葉メディカルセンターで出産ができるようになったが、車やタクシー等で産院へすぐに行けるような環境を整え、若い母親が安心できるようにしてほしい。
また、核家族化で身近に頼れる人がおらず、産後も非常に不安。市には、産後ケア等に重点的に取り組んでほしい。

事務局

貴重な意見として、参考にさせていただく。

委員

総合計画においては居住人口だけでなく、交流人口や関係人口等を含めて全体像で議論していくことが重要。
本日の説明は、人口減少が今後も進行していくという危機感を持って議論していく必要がある、ということで良いか。

事務局

本日は、後期基本計画を策定する上で、今後の策定スケジュールや将来人口推計等の資料について説明を行った。計画の内容については、次回以降、ご意見を賜りたい。

委員

大網白里市はどこを目指して、どのような計画を策定するのか。

シミュレーションの結果を目標人口とするのではなく、仮に達成できなくとも、5万人をもう一度目指し、PDCAを機能させながら実現に向けて取り組むべきなのではないか。

事務局

45,000人を維持するという目標は最低限クリアしなければならない。

ただ、市としては当然それを上回る結果を達成したいと考えている。

会長

まだ意見等あるかと思うが、先に議事3について説明し、最後に各委員から意見を伺う方が良いと思う。

事務局は議事3 市民アンケート調査について説明していただきたい。

(3) 市民アンケート調査について

(資料6～8により事務局説明)

会長

それでは、各委員の意見を伺いたい。

委員

市民アンケート調査で医療に関することが多く挙がっていたが、小泉内閣以降、病床数を減らす方向性になり、危機感を感じている。大網病院も非常にその点について苦慮しているようだが、そういった影響から医療体制への満足度が上がっていないのではないかと。

山武郡内の医師は、東金市の夜間診療所に半ばボランティアで勤務している。市がそういった点を後押しすることで、満足度も少し上がるのではないかと。

委員

今回の説明をする上で、人口の現状と将来展望というものが、総合計画上どういう位置付けなのかという説明があった方が良い。

また、目標人口と将来人口推計の結果について、もう少し整理した方が良い。

委員

アンケート結果を見ると、道路整備に関する要望が強く、重要性を認識した。

道路整備については計画・用地買収・工事等に時間を要するため、要望等を踏まえ、方向性等について話し合っていきたい。

委員

幼稚園・小中学校について、児童・生徒数の減少というのは非常に大きな問題。

「教育環境の充実」を検討する中で、総合計画における市の教育行政の位置付けはどのようになっているのか。後期基本計画を策定する中で、学校教育に関する施策をうまく組み込みこんでいきたい。

委員

基本計画の中では「まちづくりの情報共有」「企業誘致」「駅周辺」「移住定住」が今後の課題かと感じた。そのほかにも、農業に関する問題もある。

これらの課題解決に関する取組を前に進めていただきたい。

委員

消防救急体制について、人口減少、あるいはそれ以上のスピードで、消防団員が減少している。

近年、風水害等が多発しているが、団員の減少によって、初期活動等に支障をきたしており、消防団員の確保策について、意見があればご教示いただきたい。

委員

資料は事前に詳細なデータを出してもらわなければ具体的な意見が出ないのではないか。人口減少対策に関して、どのように推移しているのか細かく分析する必要がある。

また、近年、自治会に入っていない市民が増えており、地区のおよそ3分の1が入っていない状況。高齢化も進み、地区がどんどん疲弊しており、賑わいを失っていく状態にあるため、盛り上げるような施策をお願いしたい。

委員

地域のコミュニティが壊れてしまい、住民が楽しく過ごせていないのではないかと。

計画はあくまでも計画で、実際にその計画を達成するためにどうするかまでが重要。

大網白里市の良さを十分活かした上で、ここに住んでみたいと思えるような計画にしていきたい。

委員

大網白里市は地形上、地域格差が大きいと思う。アンケートの中で、その地域格差がどのように現れてるのか明確にした方が良いのではないかと。

水害対策については非常に重要度が高い反面、満足度が低い。そういった課題に対してさらに踏み込んだ分析が必要なのでは。

委員

基本計画における「都市基盤の整備」が実現できれば、大網白里市の抱える問題はある程度解決できるのではないかと。簡単なことではないが、この施策に力を入れていけば、人口増加だけでなく、工場用地の開発等により税収面も改善でき、「住みたい・住み続けたいまち」

が実現できるのではないか。

まちづくりにおいて、人口を増やすには、まず子どもを産める体制、続いて教育体制の充実が重要である。

委員

住みたいと思うには産院、学校教育の充実が必要。児童数が減少している中、施設の統廃合も検討していく必要があるのではないか。

本市には大網駅という利点があるので、医療と教育環境について重点的に取り組み、若い人たちを呼び込み、昔のような賑わいのある大網白里市になってもらいたい。

委員

国道周辺は開発が進み、アパート等の建設により人口が増えている。

本市の財政状況は県内で一番悪い。積極的に人口を増やす取り組みを進めていく必要があるのではないか。

委員

人口推計やアンケート調査結果を踏まえ、今後議論を進めていきたい。

大網白里市には市民が気づいていない魅力が多くある。そういった財産をどう活かしていくかという点が、この総合計画の基本になるのではないかと考えている。

委員

本市では人口減少が進行しているとの説明があったが、今後議論する上で、人口増を実現している自治体の施策等の資料があれば大変参考になるのではないか。

委員

人口減少に関して、人数より人口の年齢別のバランスが重要なのではないか。

大網・増穂・白里、この三つの地区がバランスよく総合的に発展するような施策を審議会で考えていきたい。

人口減少については、そのほとんどが白里地区で、今後どのように対処していくのか考えなければいけない。

委員

総合計画の施策を本当に全てやるのかと感じている。全て取り組むにはどれだけの費用がかかるのかということを考えると、今後は重点施策を掲げていくべきではないか。

人口減少対策として重点的にどのようなことに取り組むのか。そのためには、データに基づいて議論を行い、PDCAをしっかりと機能させていく必要がある。

副会長

今回の資料は断片的なので、今後の総合計画づくりの中でそれぞれどのように位置付けていくのか整理した方が良い。

人口問題については、当面人口は減らざるを得ない。短期的には増える都市はあっても、総じて見ればトータルでは人口は減少する。

そういった中で、どのような位置付けを図っていくかが大きなポイントで、人口問題を論じるということは、まちの規模を論じるということ。将来人口は 45,000 人という形で想定をしているが、この規模感は今後どうなっていくのか。

そして、まちの規模は同時に財政に関連する。現在、財政的には、地域で様々な事業を実施していくという状況ではない。いろんなことをやった方が良いという意見は出ると思うが、物理的にできる状況にない。

税収について、これまでの推移や、想定してる人口規模で税収が今後どうなっていくのかをデータで示す必要がある。合わせて、経常収支比率や財政調整基金等の財政関連の情報を結びつけて説明してもらいたい。

新しいことができないからこそ、既存の事業を今後さらに縮小していく必要がある。また、アンケート調査結果の中にあったように、今後は優先順位をつけていかなければならない。どこが重点なのか、戦略的にどこに力を入れていくべきなのか、行政側は言いづらいところもあると思うが、現実として財政状況が厳しいわけだから、重点施策として示していく必要がある。

財政規模の縮小によって、既存の事業について縦割りで住み分けていた時代は終わった。子育ては子育て、高齢者福祉は高齢化福祉、地域経済は地域経済等、個別にやっていくのは限界を迎えている。

様々なコンセプト等を交えながら、各種戦略を立てていかなければ、まちづくりが持続できない。今後は、積極的に様々な要素・世代・分野・活動団体組織と交わりながら、まちづくりに取り組む必要がある。今回は、後期基本計画で抜本的な話ではないと思うが、次なる総合計画を見据え、こういった内容で進めていくことが必要。

最後に、定住人口だけでなく、大網白里市と関わりを持ってくれる関係人口をこれからどれぐらい増やしていけるかは戦略次第。例えば、副業なら、東京で働いてる人たちが週末は大網に来て、いろんな活動をする。そういうことを戦略の一つに組み込んでいくんだったら、そういう環境を整えていく政策をやる。そういうことをこれからどんどんやってく必要があるし、それからいろんな資源活用ということも含めて、その辺はどういうふうに膨らませるのかということが、課題である。

参考に、流山市は戦略として、夫婦共働きで世帯年収 1,500 万の世帯をターゲットにし、そこに効果のある政策を優先し、実行している。人口が増える物的要因として鉄道や大型の宅地開発等もあり、政策に関して様々な評価があるが、戦略立てて 10 年以上取り組み、人口が大きく増加した。

どのような戦略を立てるか。様々なアイデアを募りながら、特に、新しい取組と既存の取組をどのように結びつけ、今後の課題解決に繋げるのか考えていく必要がある。

会長

最後に何か意見等はあるか。

(意見等なし)

会長

それでは本日の議事は以上となる。次回から後期基本計画の内容について審議を進めていくことになるので、皆様にはご協力をお願いしたい。

8. 閉 会

事務局

次回の審議會は、5月下旬頃に開催したいと考えている。開催通知は改めて送付する。
これにて第1回大網白里市総合計画審議會を閉会する。

以上